

一般質問

宮本
議員

○松浦市総合戦略の柱と教育問題について

質 市長は、松浦市を住みやすいまち、住み続けたいまちにしたいと常に特色あるまちづくりに努められています。住み続けたいまちの要件のひとつに教育問題があると私は思います。今年、市内中学校を卒業した生徒229名のうち地元の松浦高校に入学したのは約70名で、150名を超える生徒が市外の高校に通っています。もし市内に高校がなくなれば、市外から家族連れで移り住もうという人もいなくなり、市が進めている定住活性化策の基盤も揺らぐおそれがあります。ぜひ、地域総合戦略の柱に松浦高校を魅力ある学校にするための構想を掲げたらどうかと思います。が、市長の見解を伺います。

答 現在取り組んでおりますまち・ひと・しごと創生総合戦略策定の観点からも人づくりを基軸とした対策が重要だと考えます。松浦高校の支援策としてこれまで生徒確保、進学、就職支援等に取り組んでまいりましたが、今後も生徒さんから行きたいと選ばれ、また、保護者や地域の皆

様からも納得が頂けるような魅力ある高校となるための次の支援策も必要であると思っています。支援策として何が必要なのか、まち・ひと・しごと創生協議会において議論して頂き、それをまとめて戦略の重要施策のひとつと位置づけ、全力を挙げて取り組んでまいりたいと思っています。

○学校別図書館の蔵書達成率について

質 県内の市町別学校別の図書館の蔵書達成率というデータからみると、達成率100パーセント以上の学校が県下171校ありますが市内にはありませんし、75パーセント以下が7校あります。因みに平戸市、五島市と比べても蔵書数は少ないようであります。子どもたちの教育環境を充実させるために、市の財政投資以外にもいろんな方法で社会の皆様や地域の方々にご協力をお願いするというような考えをお持ちでないかお尋ねします。

答 これまでも市民の方や企業、団体の皆様からの寄付を頂き、保育所や小中学校等の図書購入に活用させて頂いております。今後とも皆様からの寄付がありましたら、時代を担う松浦の子どものために、図書費などの教育に活用したいと思っています。

一般質問

徳田
議員

○子どもの健康と虫歯予防について

質 子どもの虫歯予防に大変効果があるといわれているフッ化物物洗口は、一般には4歳から15歳位までの永久歯が生え終わるまでといわれている。本市では何歳まで実施するのか。

答 県が定めているマニュアルに基づき小学校児童までを事業対象者としております。

質 中学生まで実施出来ない理由はないか。効果が出にくくなるのではないか。県の制度期間も短いと聞くと、市はいつまで実施するのか。

答 中学生になると自分の健康に対する意識も高くなります。自分の健康は自分で守るという態度も求められますので、主体的に虫歯の予防に取り組むよう指導しております。この事業は、平成29年度までは県の補助制度により実施できますが、その後については、県の施策や事業の効果等を十分に検証し、検討いたします。

○消防団の施設等整備について

質 新入団員のはつぴや活動服等は新品を貸与し、新入団員のやる気を喚起し、消防精神を学んでほしいと思うがどうか。また、団員の中には

サラリーマンも増えている。昼間の団員不足を補うためにも団OBとの協力体制を組む考えはないか。

答 はつぴ等は、基本的には各分団で予備があればこれを使用し、なければ購入して貸与しております。土気高揚の観点からも消防団とも相談のうえ遺漏がないよう整備を進めます。団員数が定数を下回る現状です。現在、団本部会の中でも団OB活用の検討に取り組んでいます。

質 市職員の消防団加入指導を行う考えはないか。さらに会社や事業所の消防団への協力要請はどのように考えますか。

答 現在、58名の職員が居住地域分団に所属しています。かねてより職員にはボランティアとしての入団を勧奨しております。事業所等に対しても消防活動の環境づくりとして協力事業所表示証の交付とその周知に努めております。

質 予防消防意識の高揚のため、女性消防団を結成し、PR活動を行う考えはないか。

答 先進事例等も参考にしながら団本部会で検討したいと考えます。

質 消防防災に関して近隣市との防災・災害協定は結んでいますか。

答 県内全ての常備消防機関と、また隣県伊万里市、唐津市とも火災と救急救助及び災害時の相互応援協定を締結しております。